

高齢者介護施設の介護職と看護職におけるおむつ交換時の 個人防護具使用に関する感染予防行動への影響要因

廣瀬 紀子¹⁾・邊木園 幸²⁾・平尾百合子³⁾

Factors Influencing Behavioral Intentions Related to the Use of Personal Protective Equipment When Changing Diapers among Caregivers and Nurses in Long-Term Care Facilities

Noriko HIROSE¹⁾, Miyuki HEKIZONO²⁾ and Yuriko HIRAO³⁾

¹⁾Yamanashi Prefectural Kita Hospital, ²⁾Miyazaki Prefectural Nursing University, ³⁾Yamanashi Prefectural University

(2024 年 10 月 29 日受付・2025 年 3 月 13 日受理)

要 旨

我が国の高齢者人口は急速に増加しており、それに伴い高齢者介護施設の数と利用者数も増加している。令和 3 年度介護報酬改定では介護サービス事業者に感染症対策の徹底が求められ、高齢者介護施設における感染管理体制が整備された。しかし、新型コロナウイルス感染症のパンデミックではクラスターが多数発生し、職員の感染予防行動に注目が集まった。そこで、本研究では高齢者介護施設に勤務する介護職と看護職のおむつ交換時における PPE 使用に関する感染予防行動への影響要因を Ajzen の計画的行動理論によって明らかにすることとした。地域が異なる 3 県の高齢者介護施設の職員を対象者として質問紙調査を行い、①感染対策担当者 94 人、②利用者ケア担当者 584 人の回答を分析した。高齢者施設職員がおむつ交換時に使用する PPE の認識は手袋とマスクであり、エプロン使用の認識は低いことが明らかになった。介護職と看護職の PPE 使用の認識には有意差があり看護職の方が高かった。おむつ交換時の PPE 使用における感染予防行動への影響要因は、介護職は【主観的規範】の影響を受けやすく、看護職は【行動への態度】と【行動コントロール感】が影響していた。高齢者施設職員の適切な PPE 使用を促進するためには知識の向上が必要であり、感染対策の専門家との連携が望ましい。

Key words : 高齢者介護施設, 個人防護具, 感染予防行動, 計画的行動理論

1 はじめに

我が国の 65 歳以上の人口は 2022 年に 3,627 万人、高齢化率は 29.1%¹⁾ となり、このような急速な高齢者人口の増加に伴い、高齢者介護施設（介護老人保健施設、介護老人福祉施設）の施設数と利用者数は増加し続けている。

高齢者介護施設ではウイルス感染症の集団感染やそれらを原因とする死亡事例の発生がみられており、2013 年には施設における感染症の動向や感染症に関する新しい知見を踏まえた「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」²⁾ が公表された。しかし、世界中に感染拡大した新型コロナウイルス感染症は、高齢者介護施設でク

ラスターを多数発生させ、高齢者介護施設における職員の感染予防行動に社会の注目が集まった。コロナ禍の令和 3 年度介護報酬改定では、介護サービス事業者に感染症の発生およびまん延防止等に関する取り組みの徹底が求められ、高齢者介護施設における感染管理体制は整備されたが、介護職員の感染予防行動には課題が残っており、継続的な教育や訓練が必要であった。

高齢者介護施設は生活の場であり侵襲的治療は少ないが、施設の利用者は加齢による免疫機能の低下に加え、様々な障害によって衛生行動を自力で行えない高齢者が多く、そこに勤務する介護職員や看護職員の日常生活援助が必要となる。食事や排泄などの日常生活援助が 24 時間行われており、適切な感染予防行動が実施できなければ、複数の入所者に交差感染させる恐れがある。

¹⁾山梨県立北病院, ²⁾宮崎県立看護大学, ³⁾山梨県立大学

感染予防行動を考える上で Ajzen の計画的行動理論³⁾は、「行動」に対する動機づけとなる『行動意図』への影響要因を説明でき、職員の感染予防行動の分析に適していると考えられた。『行動意図』は行動をとる可能性の認知のことであり、『行動意図』には【行動への態度】【主観的規範】【行動コントロール感】が影響している⁴⁾。高齢者介護施設における主な利用者ケアは、食事介助・入浴介助・排泄介助であるが、おむつ交換は糞尿などの排泄物に直接触れる可能性が高く職員が適切な感染予防行動をとらなければ、排泄物を原因とした感染が広がる可能性がある。本研究ではおむつ交換時の職員の個人防護具（以下、PPE）の使用に関する感染予防行動に着目し、Ajzen の計画的行動理論に基づいて分析した。

II 研究目的

高齢者介護施設に勤務する介護職と看護職のおむつ交換時における PPE 使用に関する感染予防行動への影響要因を Ajzen の計画的行動理論によって明らかにする。

III 研究方法

1. 研究デザイン

自記式質問紙による量的記述的研究

2. 調査期間

2021 年 10 月～12 月、2022 年 5 月（同一の調査用紙を用いて異なる地域で調査）

3. 対象者

地域が異なる 3 県の高齢者介護施設を研究協力施設とし、そこに勤務する職員で①感染対策担当者（各施設 1 名）と、②利用者ケアを実施する介護職と看護職（以下、利用者ケア担当者）で研究協力が得られた者を調査対象者とした。

4. 調査内容

研究協力施設の選出地域における高齢者介護施設に勤務する①感染対策担当者と、②利用者ケア担当者を対象に 15 分程度の質問紙調査を行った。

①感染対策担当者へはおむつ交換時に使用する PPE の認識、②利用者ケア担当者には、回答者の属性、おむつ交換時に使用する PPE の種類と使用頻度に関する認識を質問した。PPE 使用の行動意図への影響要因については、計画的行動理論に基づいて調査した先行論文^{5,6)}を参考に研究目的に合わせて質問紙を作成した。なお、回答時間および質問の妥当性を検討するため、病院に勤務する看護師と看護補助職員に予備調査を行い確認した。

PPE（手袋、エプロン、マスク、目の防護具）の使用と行動意図への影響要因は、「そう思う」「少しそう思う」「あまり思わない」「そう思わない」の 4 段階のリッカートスケールによる調査とした。質問は回答の形骸化を防ぐため、一部に逆転質問を入れて作成した。

5. 分析方法

基本情報ならびに感染対策の実施状況については単純集計を行った。介護職と看護職の PPE 使用に関する感染予防行動への影響要因の比較は、「そう思う」「少しそう思う」を「思う」、「あまり思わない」「そう思わない」を「思わない」に分け、『行動意図』に影響する 3 つの要因【行動への態度】【主観的規範】【行動へのコントロール感】との関係について、 χ^2 検定またはフィッシャーの直接確率法により検定を行なった。いずれの統計処理も有意水準は 5% 以下とし、統計解析には JMP ver.13 を用いた。

コロナ禍での調査であり、マスクの着用は指示されており効果的な分析ができないこと、また、目の防護具はおむつ交換時の使用が少ないため、感染予防行動への影響要因は手袋とエプロンについて分析することとした。

6. 倫理的配慮

本研究は、「ヘルシンキ宣言」及び「看護師の倫理綱領」「看護研究における倫理指針」の趣旨に沿って計画し、研究者所属 2 施設の研究倫理審査委員会での承認を得て実施した（承認番号 2021-10、第 3-32 号）。

IV 研究結果

高齢者介護施設 832 施設に対して、研究協力に関する意向調査を行った。返信は 288 施設（回収率 34.6%）からあり、そのうち研究協力の意向が得られた 106 施設（12.7%）に質問紙を送付した。

96 施設（回収率 98.0%）から回収でき、①感染対策担当者は各施設 1 名ずつ 96 人（100%）から回答が得られ、おむつ交換をしていない 2 施設を除いた 94 人（97.9%）を対象としてデータ分析を行った。②利用者ケア担当者は 869 人から回答が得られ、データに欠損がある 274 人を除き 584 人（67.2%）を対象とした。

1. 回答者の基本属性

①感染対策担当者の職種は看護職が 64 人（68.1%）を占め、次いで介護職 15 人（16.0%）、事務職 7 人（7.4%）、その他 8 人（8.5%）であった。②利用者ケア担当者は介護職が 508 人（85.4%）を占め、そのうちの約 70% は介護福祉士の資格を有していた。残りは看護職 76 人（12.8%）、その他 11 人（2.0%）であった。

2. おむつ交換時に使用する PPE の感染対策担当者 と利用者ケア担当者の認識（表 1）

感染対策担当者の認識は、手袋 92 人（97.9%）、マスク 87 人（92.6%）であり、袖なしエプロン 41 人（43.6%）、袖付きエプロン 16 人（17.0%）、目の防護具 10 人（10.6%）であった。

利用者ケア担当者のうち介護職は、手袋 507 人（99.8%）、マスク 479 人（94.3%）、袖なしエプロン 208 人（40.9%）、目の防護具 24 人（4.7%）であった。看護

表 1 おむつ交換時に使用する PPE の感染対策担当者と利用者ケア担当者の認識

	利用者ケア担当者 (n=584)				感染対策担当者 (n=94)	
	看護職 (n=76)		介護職 (n=508)			
	n 数	%	n 数	%	n 数	%
使用する PPE						
手袋	76	100	507	99.8	92	97.9
マスク	67	88.2	479	94.3	87	92.6
袖付きエプロン	5	6.6	30	5.9	16	17.0
袖なしエプロン	50	65.8	208	40.9	41	43.6
眼の防護具	21	27.6	52	10.2	10	10.6
PPE の使用頻度 (いつも使用)						
手袋	75	98.7	487	95.9		
マスク	75	98.7	505	99.4		
エプロン	52	68.4	261	51.4		
眼の防護具	14	18.4	21	4.1		

職は手袋 76 人 (100%), マスク 67 人 (88.2%), 袖なしエプロン 50 人 (65.8%), 目の防護具 9 人 (11.8%) であった。

3. おむつ交換時の PPE 使用における介護職と看護職の感染予防行動への影響要因の比較 (表 2, 表 3)

手袋は「ルールで決まっているため手袋を使用している」($p=0.04$), 「施設が用意しているので使用している」($p<0.01$) という【主観的規範】と「手袋を使用した方が安心なので使用している」($p<0.01$) という【行動コントロール感】の項目に有意差があった。

エプロンは「エプロンを使用する必要があると思う」($p<0.01$), 「エプロンを使用しないと感染する可能性がある」($p=0.02$) という【行動への態度】と「エプロンを使用した方が安心なので使用している」($p=0.01$), 「エプロンを使用しても感覚が鈍くならない」($p=0.02$), 「エプロンの着脱は苦にならない」($p<0.01$), 「業務が忙しくてもエプロンを使用している」($p<0.01$), 「エプロンは使用しやすいように配置されている」($p=0.04$), 「エプロンを使用するかどうかは自分で決められる」($p<0.01$) という【行動コントロール感】の項目に有意差が認められた。

V 考 察

1. 高齢者介護施設におけるおむつ交換時の PPE 使用について

おむつ交換時に使用する PPE は, 感染対策担当者と介護職の認識はほぼ一致していた。おむつ交換時には, エプロン・手袋・サージカルマスクを着用し, さらに陰部洗浄を行う場合は, 必要に応じてゴーグル等を使用する必要がある。

おむつ交換時の手袋使用の認識は, 看護職が 100% であったのに対して, 感染対策担当者 97.9%, 介護職 99.8%

であった。さらに, 「いつも使用している」は, 介護職 68.9%, 看護職 98.7% であり, 手袋を使用せずにおむつ交換を行っていることが示唆された。また, エプロンの使用の認識は, 感染対策担当者 43.6%, 介護職 40.9%, 看護職 65.8% であり, 高齢者介護施設でのおむつ交換時にエプロンの使用率が低いことが明らかになった。

2. 利用者ケア担当者の PPE 使用に関する感染予防行動への職種別の影響要因

介護職と看護職の手袋使用には, 【主観的規範】と【行動コントロール感】に有意差がみられた。介護職は「施設のルール」「施設が用意している」という【主観的規範】と「手袋のサイズ感」「手袋使用による安心感」という【行動コントロール感】が影響していた。看護職は「手袋の必要性」という【行動への態度】, 「手袋の着脱は苦にならない」や「忙しくても手袋を使用する」という【行動コントロール感】が影響していた。Loveday ら⁷⁾の医療従事者を対象とした研究では, 手袋使用の判断は【主観的規範】と【行動への態度】に影響されており, 主な感情は“disgust” (嫌悪感) と“fear” (恐怖) であった。また, 汚染リスクが低いにもかかわらず「嫌悪感」が高い場合は手袋をつけ, 自己へのリスクは過大に見積もられ, 手袋をした手への感染リスクは過小評価されると報告されていた。今回の介護職も, おむつ交換時に自身の手指汚染への嫌悪感や恐怖を認識し, 利用者よりも自分の防御のために手袋を使用していると思われた。PPE 使用に関する【行動への態度】【行動コントロール感】には感染予防に関する知識が影響するため教育が重要である。

エプロン使用への影響要因の比較では, 「必要性」や「感染リスク」という【行動への態度】に有意差があり, 看護職はおむつ交換時に衣服への感染リスクを認識しエプロンを使用していた。また, エプロンを使用することでの「安心感」や「着脱の困難感」「自分で決められる」等の【行動コントロール感】の認識にも差があり, エプロン

表2 おむつ交換時の手袋使用における介護職と看護職の行動意図への影響要因の比較

			介護職 (n=508)		看護職 (n=76)		合計 (n=584)		p 値	OR	95%CI	
			n 数	%	n 数	%	n 数	%			下限	上限
【行動への態度】												
手袋を使用する必要があると思う	思う		505	99.4	75	98.7	580	99.3	0.47	2.2	0.2305	21.859
	思わない		3	0.6	1	1.3	4	0.7				
手袋を使用しないと感染する可能性がある	思う		497	97.8	72	94.7	569	97.4	0.11	2.5	0.7784	8.0938
	思わない		11	2.2	4	5.3	15	2.6				
手袋を使用してケアするのは利用者に失礼である	思う		108	21.3	13	17.1	121	20.7	0.40	1.3	0.6943	2.4661
	思わない		400	78.7	63	82.9	463	79.3				
【主観的規範】												
ルールで決まっているため手袋を使用している	思う		285	56.1	33	43.4	318	54.5	0.04	1.7	1.0240	2.7082
	思わない		223	43.9	43	56.6	266	45.5				
施設が手袋を用意しているので使用している	思う		328	64.6	36	47.4	364	62.3	p<0.01	2.0	1.2459	3.2904
	思わない		180	35.4	40	52.6	220	37.7				
上司が勧めているので使用している	思う		231	45.5	29	38.2	260	44.5	0.23	1.4	0.8241	2.2165
	思わない		277	54.5	47	61.8	324	55.5				
同僚が手袋を使用するので使用している	思う		195	38.4	23	30.3	218	37.3	0.17	1.4	0.8526	2.4173
	思わない		313	61.6	53	69.7	366	62.7				
【行動コントロール感】												
手袋の素材が良いので使用している	思う		221	43.5	27	35.5	248	42.5	0.19	1.4	0.8464	2.3074
	思わない		287	56.5	49	64.5	336	57.5				
手袋のサイズがあっているので使用している	思う		286	56.3	30	39.5	316	54.1	0.01	2.0	0.2075	3.2317
	思わない		222	43.7	46	60.5	268	45.9				
手袋を使用したほうが安心なので使用している	思う		493	97.0	68	89.5	561	96.1	p<0.01	3.9	1.5803	9.4607
	思わない		15	3.0	8	10.5	23	3.9				
手袋を使用しても感覚が鈍くならない	思う		322	63.4	52	68.4	374	64.0	0.39	0.8	0.4768	1.3389
	思わない		186	36.6	24	31.6	210	36.0				
手袋の着脱は苦にならない	思う		403	79.3	61	80.3	464	79.5	0.85	0.9	0.5157	1.7272
	思わない		105	20.7	15	19.7	120	20.5				
業務が忙しくても手袋を使用している	思う		492	96.9	74	97.4	566	96.9	0.81	0.8	0.1873	3.6882
	思わない		16	3.1	2	2.6	18	3.1				
手袋は使用しやすいように配置されている	思う		471	92.7	66	86.8	537	92.0	0.79	1.9	0.9161	4.061
	思わない		37	7.3	10	13.2	47	8.0				
手袋を利用者ごとの廃棄はもったいない	思う		72	14.2	12	15.8	84	14.4	0.71	0.9	0.4529	1.7127
	思わない		436	85.8	64	84.2	500	85.6				
手袋を使用するかどうかは自分で決められる	思う		253	49.8	47	61.8	300	51.4	0.05	0.9	0.3734	1.0037
	思わない		255	50.2	29	38.2	284	48.6				

p 値は χ^2 検定及び Fisher 直接確率法による

の使用に影響していた。介護職も看護職と同様に「必要性」や「感染リスク」を認識していたが、「施設のルール」や「施設が用意している」という【主観的規範】が影響していたと考えられた。

介護職と看護職の PPE 使用への影響要因は、教育課程の違いによる感染対策に関する学修内容の違いが影響したと考える。工藤ら⁸⁾は、入職前の感染症対策研修の受講率は介護福祉士・ヘルパーが看護師に比べ有意に低いことを指摘しており、入職時・入職後の感染対策への教育が重要となる。Shwe⁹⁾らは、明確で効果的な教育・訓練プログラムを実施し、PPE への適切なアクセスの確保と組織の安全文化の構築により PPE の適切な使用を向上させることができると報告している。適切に PPE

を使用するためには、感染対策の教育と PPE の着脱トレーニングおよびコンプライアンス向上のために PPE の使用状況のモニタリングが必要である。

医療施設や研究機関の感染対策の専門家が高齢者介護施設に赴き、施設内研修を充実させれば、介護施設の職員の知識・技術が向上し、エビデンスに基づいた感染対策が実施できる。2024 年の介護報酬改定では、感染症対応力の向上を目的に高齢者施設等感染対策向上加算が新設された。感染症発生時の医療機関との迅速な連携、日ごろから職員の研修会や訓練への参加により、高齢者介護施設職員の感染対策への意識向上が望まれる。

表3 おむつ交換時のエプロン使用における介護職と看護職の行動意図への影響要因の比較

		介護職 (n=508)		看護職 (n=76)		合計 (n=584)		p 値	OR	95%CI	
		n 数	%	n 数	%	n 数	%			下限	上限
【行動への態度】											
エプロンを使用する必要があると思う	思う	425	83.7	75	98.7	500	85.6	p<0.01	0.1	0.0094	0.4980
	思わない	83	16.3	1	1.3	84	14.4				
エプロンを使用しないと感染する可能性がある	思う	396	78.0	68	89.5	464	79.5	0.02	0.4	0.1941	0.8913
	思わない	112	22.0	8	10.5	120	20.5				
エプロンを使用してケアするのは利用者に失礼である	思う	85	16.7	8	10.5	93	15.9	0.17	1.7	0.7918	3.6843
	思わない	423	83.3	68	89.5	491	84.1				
【主観的規範】											
ルールで決まっているためエプロンを使用している	思う	204	40.2	30	39.5	234	40.1	0.91	1.0	0.6285	1.6846
	思わない	304	59.8	46	60.5	350	59.9				
施設がエプロンを用意しているので使用している	思う	217	42.7	30	39.5	247	42.3	0.59	1.1	0.6988	1.8709
	思わない	291	57.3	46	60.5	337	57.7				
上司が勧めているので使用している	思う	180	35.4	27	35.5	207	35.4	0.99	1.0	0.6018	1.6481
	思わない	328	64.6	49	64.5	377	64.6				
同僚がエプロンを使用するので使用している	思う	159	31.3	21	27.6	180	30.8	0.52	1.2	0.6977	2.0406
	思わない	349	68.7	55	72.4	404	69.2				
【行動コントロール感】											
エプロンの素材が良いので使用している	思う	122	24.0	17	22.4	139	23.8	0.75	1.1	0.6162	1.9526
	思わない	386	76.0	59	77.6	445	76.2				
エプロンのサイズが体にあってるので使用している	思う	139	27.4	18	23.7	157	26.9	0.50	1.2	0.6908	2.1327
	思わない	369	72.6	58	76.3	427	73.1				
エプロンを使用したほうが安心なので使用している	思う	330	65.0	61	80.3	391	67.0	0.01	0.5	0.2518	0.8253
	思わない	178	35.0	15	19.7	193	33.0				
エプロンを使用しても感覚が鈍くならない	思う	342	67.3	61	80.3	403	69.0	0.02	0.5	0.2796	0.9181
	思わない	166	32.7	15	19.7	181	31.0				
エプロンの着脱は苦にならない	思う	300	59.1	59	77.6	359	61.5	p<0.01	0.4	0.2356	0.7332
	思わない	208	40.9	17	22.4	225	38.5				
業務が忙しくてもエプロンを使用している	思う	296	58.3	64	84.2	360	61.6	p<0.01	0.3	0.1379	0.4971
	思わない	212	41.7	12	15.8	224	38.4				
エプロンは使用しやすいように配置されている	思う	283	55.7	52	68.4	335	57.4	0.04	0.6	0.3471	0.9710
	思わない	225	44.3	24	31.6	249	42.6				
エプロンを利用者ごとの廃棄はもったいない	思う	146	28.7	24	31.6	170	29.1	0.61	0.9	0.5193	1.4705
	思わない	362	71.3	52	68.4	414	70.9				
エプロンを使用するかどうかは自分で決められる	思う	228	44.9	46	60.5	274	46.9	0.01	0.5	0.3247	0.8687
	思わない	280	55.1	30	39.5	310	53.1				

p 値は χ^2 検定及び Fisher 直接確率法による

VI 結 論

PPE 使用の影響要因は、介護職は【主観的規範】であり、看護職は【行動への態度】と【行動コントロール感】であった。

高齢者介護施設職員が適切に PPE を使用するためには知識が必要であり、職員の適切な感染予防行動を促すためには医療施設や研究機関と連携し、研修会や訓練へ参加し、施設職員の感染対策への意識向上が望まれる。

VII 研究の限界と課題

本研究はコロナ禍での調査であり、強化された感染対策が研究結果に影響していると考えられる。また、研究協力への意向がある施設への調査であるため、データに

偏りが生じている可能性があり、研究結果の一般化には限界がある。

謝 辞：本研究を行うにあたり、調査にご協力いただきました高齢者介護施設の職員の皆様に厚く御礼申し上げます。本研究は JSPS 科研費 JP20K10690 の助成を受けたものです。

利益相反自己申告：申告すべきものなし。

文 献

- 1) 内閣府：令和 5 年度版高齢社会白書 高齢化の状況：http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2023/zenbun/05/pdf_index.html：2024 年 4 月 15 日現在。
- 2) 平成 30 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人

- 保健健康増進等事業分) : 高齢者介護施設における感染対策マニュアル改訂版 : <https://www.mhlw.go.jp/content/000500646> : 2024 年 4 月 15 日現在.
- 3) Ajzen I: The Theory of Planned Behavior. *Organizational Behavior and Human Decision Processes* 1991; 50: 179-211.
 - 4) 福田吉治, 八幡裕一郎, 今井博久 : 一目でわかるヘルスプロモーション 理論と実践ガイドブック, 国立保健医療科学院, 2008. p. 12-3.
 - 5) 廣田直美, 平尾百合子 : 高齢者地域の病院の手術室環境清浄化における看護師の PPE 使用への行動意図. *山梨県大看・看研ジャーナル* 2019; 5(1): 1-12.
 - 6) 堀内 愛, 本間隆之, 平尾百合子 : 助産師の分娩介助時における血液・体液曝露予防の実態と個人用防護用具使用への影響要因. *山梨県大看・看研ジャーナル* 2021; 7(1): 54-62.
 - 7) Loveday H P, Lynam S, Singleton J, Wilson J: Clinical glove use: healthcare workers' actions and perceptions. *J Hosp Infect* 2014; 86: 110-6.
 - 8) 工藤綾子, 池田 恵, 佐久間志保子, 横山久美, 稲富恵子 : 高齢者福祉施設における看護師・介護福祉士・ヘルパーの感染予防教育の課題. *医と生物* 2013; 157(5): 9-25.
 - 9) Shwe S, Sharma A A, Lee P K: Personal Protective Equipment: Attitudes and Behaviors Among Nurses at a Single University Medical Center. *Cureus* 2012; 13(12): e20265 doi: 10.7759/cureus.20265.
- 〔連絡先 : 〒407-0046 山梨県韮崎市旭町上條南割 3314-13
山梨県立北病院 廣瀬紀子
E-mail: hirose-bdbp@ych.pref.yamanashi.jp〕

Factors Influencing Behavioral Intentions Related to the Use of Personal Protective Equipment When Changing Diapers among Caregivers and Nurses in Long-Term Care Facilities

Noriko HIROSE¹⁾, Miyuki HEKIZONO²⁾ and Yuriko HIRAO³⁾

¹⁾Yamanashi Prefectural Kita Hospital, ²⁾Miyazaki Prefectural Nursing University, ³⁾Yamanashi Prefectural University

Abstract

Japan's rapidly aging, has led to an increase in long-term care facilities for elderly individuals and their users. Following the FY2021 revision of long-term care fees, service providers were mandate to implement comprehensive infection control measures, resulting in the establishment of infection control systems within these facilities. Despite these efforts, the COVID-19 pandemic triggered numerous infection clusters, underscoring the importance of infection prevention practices among staff. This study aimed to identify the factors influencing the use of personal protective equipment (PPE) during diaper change by caregivers and nurses in long-term care facilities, using Ajzen's theory of planned behavior as a conceptual framework. A questionnaire survey was conducted among staff in long-term care facilities for elderly individuals across three prefectures. Responses from 94 infection control and 584 user care personnel (caregivers and nurses) were analyzed. The results indicated that while staff were generally aware of the need to use PPE, such as gloves and masks, during diaper changes, awareness of apron use was comparatively low. Nurses reported more frequent PPE use than caregivers. The behavioral determinants of PPE use differed between roles; caregivers were more influenced by "subjective norms," whereas nurses were guided by their "attitude toward the behavior" and "perceived behavioral control." To promote appropriate PPE use in long-term care settings, it is essential to enhance staff knowledge and foster collaboration with infection control experts.

Key words: long-term care facilities, personal protective equipment, infection prevention behavior, theory of planned behavior